大学生の所属サークルと協調性との関係

○登張真稲[1]・大山智子[2]・首藤敏元[3]・名尾典子[1]・木村あやの[4]
([1]文教大学・[2]白百合女子大学・[3]埼玉大学・[4]昭和女子大学)

【問題と目的】

登張他(2012a)は協調性概念を，自分の考えを持ったうえで他者の意見も聞き，両者にとってより良いやり方を見つけるという積極的で創造的な側面も合わせた概念として捉え，協調スキル，非協力，調和指向，協力指向の 4 下位尺度からなる新たな協調性尺度を開発した。Big5 調和性，相互独立的自己観-相互協調的自己観尺度等との関係から，尺度の妥当性も確認された(登張他，2012b)。

個人の協調性は，遺伝的要因や初期の家庭環境によって規定される部分もあるが，児童期や青年期以降の他者とのさまざまな経験の中で育まれる部分もあるのではないかと考えられる。

本研究では，大学生男女を対象とする調査結果をもとに，所属サークルとそこでの経験が，協調性の 4 つの側面とどのように関連するかを検討する。

【方　法】

被調査者：大学生男子 237 名，女子 260 名, 性別不明 4 名　　**調査時期**：2011 年 12 月～2012 年 1 月
測定尺度と質問項目：①協調性尺度(登張他, 2012a,b)
②所属サークル名と活動内容(主なもの二つ), 熱心に参加しているか, リーダーをしているかの有無。

【結果と考察】

所属サークル名と活動内容についての回答をもとに，活動内容を①スポーツ②音楽③国際貢献またはボランティア④勉強会⑤その他文系⑥学祭委員会または生協委員会⑦活動内容不明⑧記入無の 8 カテゴリーに分類した。Table 1 に⑦(2 名)を除く 7 群の協調性下位尺度の平均値，分散分析と多重比較の結果，およびサークル活動に熱心群と熱心なサークルなし群，サークルのリーダー群とリーダーではない群の協調性下位尺度の平均値と平均値の差の検定結果を示した。

Table 1　所属サークルの活動内容，熱心さ，リーダーの有無による協調性下位尺度得点の違い

所属サークルの活動内容	N	協調スキル	非協力	調和指向	協力指向
①　スポーツ	143	3.83	2.07	3.67	3.84
②　音楽	55	4.00	1.74	3.92	3.97
③　国際貢献またはボランティア	42	3.93	1.89	3.80	3.84
④　勉強会	6	3.70	2.52	3.92	3.57
⑤　その他文系サークル	43	3.87	1.97	3.79	3.51
⑥　学際委員会または生協委員会	17	3.99	1.63	3.75	4.15
⑧　サークル記入無	193	3.77	2.10	3.77	3.62
活動内容の効果　F(6, 491)		2.22*	4.85***	1.10	4.75***
多重比較		②＞⑧*	②⑥＜④⑧* ②＜①*		②⑥＞⑤⑧**
サークル活動に熱心	210	3.91	1.93	3.77	3.88
熱心に活動するサークルなし	291	3.79	2.07	3.75	3.65
平均値の差の検定(t)		2.55*	−2.51*	0.34	3.87***
サークルのリーダー	37	4.01	1.92	3.71	3.85
リーダーではない	464	3.83	2.02	3.77	3.74
平均値の差の検定(t)		2.13*	−0.95	−0.53	0.97

注）各平均値は得点範囲 1-5 に換算した値を示した。　　*** p<.001　** p<.01　* p<.05

所属サークルの活動内容については，音楽サークル（合唱，吹奏楽等）と学際委員会または生協委員会に所属する群が，サークル記入無群などより協調スキルと協力指向が高く，非協力が低かった。サークル熱心群は協調スキルと協力指向が高く，非協力が低く，サークルのリーダー群は協調スキルが高かった。調和指向とサークル活動との間に有意な関係はみられなかった。サークル活動やそこでの経験は，協調性の積極的側面を育む可能性があることが示唆された。